苫小牧市議会議員
# 小山征三 通信 『夏』号
2011. 7. 10
小山せいぞう後援会　苫小牧市ときわ町１丁目１９－２３　TEL０１４４（６７）８２５５

後援会の皆さん、こんにちは。

皆さんのご支持、ご支援のおかげで、初当選を果たすことができ、本当にありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

私の任期は、２０１１年５月１日から２０１５年４月３０日までの４年間です。

さっそく、５月１３日から５月１８日まで**臨時議会**が開かれ補正予算の審議で、３月１１日の「東日本大震災」の本市の対応について質問しました。元消防官の私としては「市民の生命と財産を守る」ため、安心・安全の観点から消防職場の体制強化が最も重要であると強調しました。緊張しての初登壇でしたが、皆さんの後押しを励みに「やれる事からどんどん言おう！」と思っています。

６月２３日から７月１日まで**定例議会**が開かれ、一般質問では、２番目に登壇しました。

持ち時間は４０分。**①救急医療**（ア．救急医療の東西バランスについて　イ．救急現場と医療職場の連携について）**②苫小牧西港の規制緩和**（ア．石油コンビナート等災害防止法について）**③安全・安心のまちづくり**（ア．東日本大震災における本市の状況について　イ．総合防災センターの設置について）を質問しました。

ここで全てを語るには難しいので３点について説明をさせていただきます。

## *１つ目は、「救急医療の東西バランスについて」です。*

苫小牧市内には、救急車が５台を配備されていますが、苫小牧駅前通りを境に東地区に２台、西地区に３台となっています。西地区が１台多いのは、６５歳以上の人口比、そして救急車の搬送人員の割合を見ると、**６５歳以上の高齢者が６４％**を占め、**急病人の搬送人員も５９％以上**を占めているからです。

| | 東地区 | | 西地区 | |
|---|---|---|---|---|
| 65 歳以上の人口 | 12,975 人 | 35.77% | 23,296 人 | 64.23% |
| 救急車搬送人員 | 1,555 人 | 40.86% | 2,251 人 | 59.14% |
| 医療機関までの最大距離と時間 | 9.2km | **20.0 分** | 12.8 km | **25.4 分** |

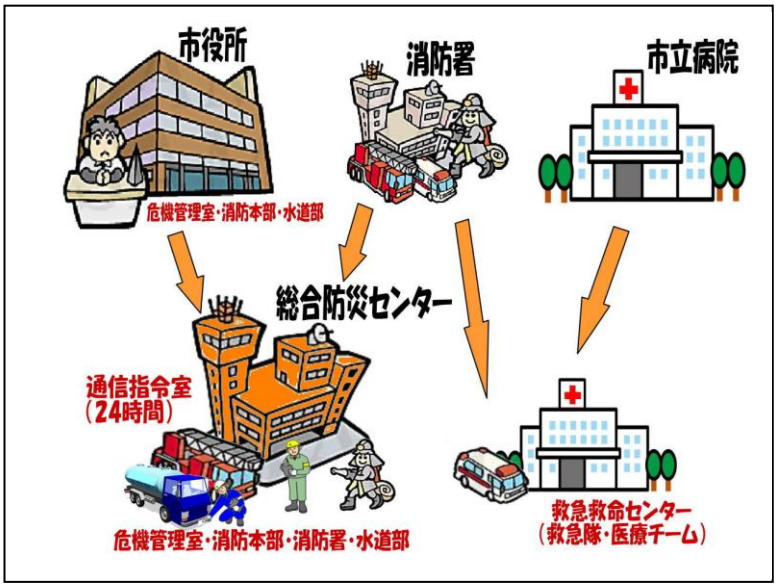
※　平成 22 年の状況

しかし、救急車は、何と言っても患者を収容してから病院へいち早く搬送することが重要です。今、患者の受け入れ先は、一次医療機関が夜間休日急病センターで、二次医療機関が市立病院と王

子病院です。これらの病院は、一極集中で中心部に配置され、西地区から搬送する場合、東地区からよりも**５～６分の程度時間を要する**ことが説明により確認できました。

私は、補助金を交付し、西地区にも診療時間を延長できる病院を確保すべきと提案しましたが、その考えは無いとの理事者の答弁でした。西地区に限らず、高齢化の進む地区に診療時間を延長できる病院を確保すること「**一極集中から地域分散**」を政策課題として今後も訴えていきます。

## *２つ目は、「総合防災センターの設置について」を提案しました。*

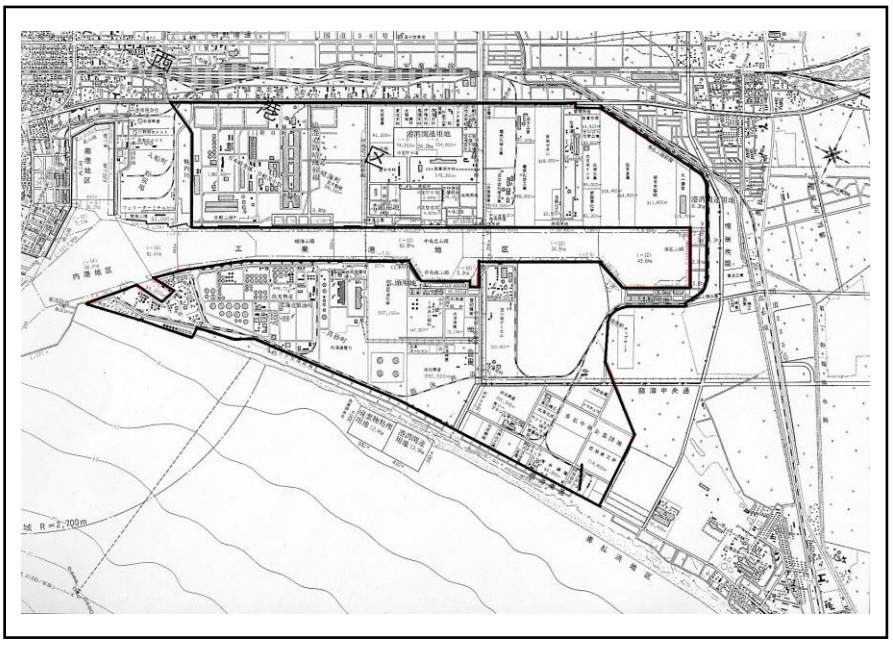



これは、市民生活を守る最大のテーマです。例えば火事と救急は１１９番の消防署が対応し、行方不明者が出た場合は市役所の危機管理室、水道の事故等は市役所の上下水道部などと、対応がバラバラです。

そこで、私は**市民生活の中で起きる危険な事故、災害など全てを２４時間体制で一元化することをイラストで提案しました。**さらに救急車を市立病院に配置し、救急と医療の連携を強化していく必要性も指摘しました。理事者は「重大な関心を持っており、優先度の高い課題」との認識を示しました。実現に向けて、今後とも注視していくつもりです！

## *３つ目は、「企業誘致のための苫小牧西港周辺の規制緩和」です。*

企業誘致は、税収や新たな雇用にもつながり、その従業員による消費の拡大なども期待されます。一社でも多くの企業立地を促すために今回は、イラストを用いて規制緩和の提案をさせていただきました。



石油コンビナートの特別防災区域として長年、規制されてきた範囲を黒枠で示しています。この規制は、昭和５０年代に制定され、未だに見直しがされていません。今や石油関連施設は、真砂町に集中していることから、晴海町などの規制を解除して、企業誘致の後押しをすべきと提案させていただきました。理事者からは、企業の意見を聞きながら検討して行きたいとのことです。

***《熱血現場主義》小さなこと、身近な問題、地域から発信しますので、よろしくお願いします。***